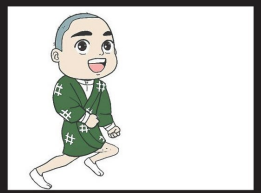
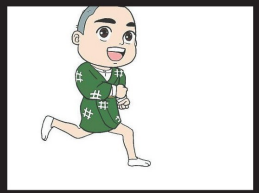
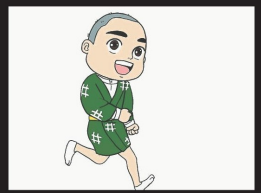
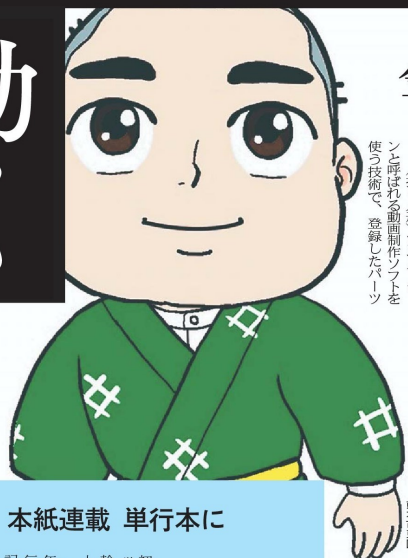


動く



金栗君 しゃべる、走る

大好評のうちに昨年末、連載を終えた漫画「KANAKURI」主人公の金栗四三君が、動画になって帰ってくる?! 金栗君がしゃべり、走り、笑う楽しい動画が近々、生家などがあるゆかりの地、玉名市と和水町に登場する。連載の作画者で動画制作も担当する岩田紘典さん(39)=崇城大芸術学部マンガ表現コース非常勤講師=を熊本市東区の自宅に訪ねた。

岩田さんの本職は、ある人気漫画家のベテランアシスタント。KANAKURIは岩田さんの連載デビュー作でもある。制作用の高機能パソコンや機材が並ぶ仕事部屋では、岩田さんが体を左右に動かしながら、にこにこ笑顔でパソコンに向かっていた。画面を見ると、なんと金栗君まで同じようにほほ笑んで体を揺らしている。

「パソコンのカメラで読み取ったこちらの表情を、あらかじめ入力しておいた金栗君のパーツから探して、再現してくれる最新の映像表現です」。パペットと呼ばれる動画制作ソフトを使う技術で、登録したパーツは目や口、手足など30種類。岩田さんがこのために書き下ろした。

収録では、岩田さんの顔の表情や動きの変化に合わせて、パソコン内の金栗君も眉を上げ下げ。まばたきしたり、口をパクパクしゃべるように動かしたりと、まるで鏡を見ているようだ。

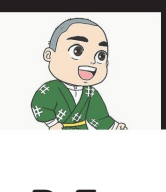
コミカルな動きと豊かな表情がかわいらしい動画の金栗君の役目は、玉名市と和水町のプロモーション。生家などの観光案内をはじめ、各地の特産品やうまいものなどを、作中のキャラクターが登場し、紹介する計画だ。

9カ月の連載で、誰からも愛される金栗像を追い求めてきた岩田さんは「何度しくじっても挑戦することの大切さを、金栗さんは3度の五輪で体現してきた。持の共感を集め、親しまれる存在となった金栗君と、これからも地域を元気にするお手伝いを続けたい」と意気込んでいる。

(松本敦)

※金栗はじめ動画のキャラクターが登場する動画は、1月中旬以降、和水町の生家や玉名市の施設などで順次、公開予定。

漫画KANAKURI作画者の岩田紘典さん。主人公、金栗君の動画作成で「地域を元気にするお手伝いを続けたい」と意気込んでいる=熊本市東区

本紙連載 単行本に

漫画「KANAKURI」 日本初のオリンピック選手として、ストックホルム五輪を皮切りに3度の五輪でマラソン競技に出場し、日本陸上界の発展にも尽くした金栗四三(和水町出身、1891~1983年)の生涯を描く。昨年4~12月、毎週土曜朝刊に連載。原作は元熊日記者の長谷川孝憲さん、構成は熊本マンガミュージアムプロジェクトの橋本博代表。単行本が発売中。A5判248ページ、1620円。発行・熊本日日新聞社。